

社会福祉法人ひかり

令和元年度 事業報告

目次

【法人の理念】	．．．．．	P. 1
【法人の使命】	．．．．．	P. 1
1. 法人運営について	．．．．．	P. 2
2. 経営会議について	．．．．．	P. 3
3. 職員の退職・入職について	．．．．．	P. 3
4. 情報発信力の強化・地域連携について	．．．．．	P. 3
5. 人材育成および資質向上について	．．．．．	P. 3
I. 東戸塚地域活動ホームひかり		
1. 日中活動事業	．．．．．	P. 4
2. 生活支援事業	．．．．．	P. 12
3. 相談支援事業	．．．．．	P. 15
4. おもちゃ文庫事業	．．．．．	P. 23
5. 余暇活動支援事業	．．．．．	P. 25
6. 地域交流事業	．．．．．	P. 27
7. 各委員会	．．．．．	P. 28
II. ラフォーレさくら	．．．．．	P. 31
III. 後見的支援センターとつかエコー	．．．．．	P. 36
IV. 相談支援事業所こだま	．．．．．	P. 38
V. ホープ川上	．．．．．	P. 39

【法人の理念】

「人間らしく生きること」

すべての人が、人間として、その人らしく生きることを支援します。

【法人の使命】

1. 地域の人々の、障がいへの理解を推進すること。
2. 利用者の QOL（生活の質）を高める支援を行うこと。
3. 利用者個々のニーズに応え、利用者自らが主人公となる活動を提供すること。
4. 職員は常に学ぶことを忘れず、自己研鑽に努めること。
5. 区内および近隣区の福祉・教育・保健・医療等の関係機関、団体と連携し、地域ケアシステムにおけるネットワーク形成の拠点となること。

1. 法人運営について

今年度の理事会・評議員会の開催状況は、以下の通りです。

名 称	日 時	内 容
第 68 回 理事会	令和元年 6 月 6 日 (木) 18:00~19:50	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度 事業報告案の件 ・平成 30 年度 決算案の件 ・平成 30 年度 監事監査報告の件 ・令和元年度 第 1 次補正予算案の件 ・就業規則一部改正の件 ・新役員選任の件 ・評議員会開催の件
第 59 回 評議員会	令和元年 6 月 25 日 (火) 16:30~18:00	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度 事業報告案の件 ・平成 30 年度 決算案の件 ・平成 30 年度 監事監査報告の件 ・理事 (6 名) 選任の件 ・監事 (2 名) 選任の件 《報告事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・就業規則一部改正の件
第 69 回 理事会	令和元年 6 月 25 日 (火) 18:30~19:00	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・新役員同意の件 ・理事長選定の件 ・業務執行理事選定の件
第 70 回 理事会	令和元年 12 月 5 日 (木) 16:30~18:00	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 上半期事業報告案の件 ・令和元年度 第 2 次補正予算案の件 ・経理規程改正の件 《報告事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長の職務執行状況報告の件 ・業務執行理事の職務執行状況報告の件
第 71 回 理事会	令和 2 年 3 月 26 日 (木) 18:00~19:30	《議決事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度 最終補正予算案の件 ・令和 2 年度 業計画案の件 ・令和 2 年度 当初予算案の件 《報告事項》 <ul style="list-style-type: none"> ・理事長の職務執行状況報告の件 ・業務執行理事の職務執行状況報告の件

2. 経営会議について

理事長、理事、施設長を構成メンバーとして、経営・運営上の課題検討に加え、理事会・評議員会の準備と開催時期など、毎月1回開催しました。

3. 職員の退職・入職について

< 東戸塚地域活動ホームひかり >

【入職】	平成 31 年 4 月	相談員	1 名	(常勤職員 : 女性)
		相談員	1 名	(常勤職員 : 男性)
	8 月	生活支援員	1 名	(パート : 女性)
	令和 2 年 1 月	相談員	1 名	(常勤職員 : 男性)
		生活支援員	2 名	(パート : 女性)
【退職】	平成 31 年 4 月	看護師	1 名	(パート : 女性)
	令和 元年 7 月	事務員	1 名	(パート : 女性)
	11 月	生活支援員	1 名	(パート : 女性)
	令和 2 年 1 月	相談員	1 名	(常勤職員 : 女性)
	3 月	生活支援員	1 名	(パート : 女性)

< 後見的支援センターとつかエコー >

【入職】	平成 31 年 4 月	あんしんサポーター	2 名	(常勤職員 : 女性)
------	-------------	-----------	-----	-------------

4. 情報発信力の強化・地域連携について

戸塚区のコミュニティ FM 局として、地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」という番組の中で、東戸塚地域活動ホームひかりのイベント情報の発信、ラフォーレさくらの利用者が描いた絵手紙の紹介や事業所の見学会が実施されました。

理事長が株式会社エフエム戸塚の放送番組審議委員となり、今年度5回開催された放送番組審議会に出席し、エフエム戸塚が放送する番組を審議しました。また、東戸塚絆の会に参画し、毎月一回開催される会合に出席して、地域との連携強化を図りました。

5. 人材育成および資質向上について

外部研修を中心に、関係職員を参加させ、職員の資質向上に努めました。参加した研修については、各事業で報告しています。また、職場内での委員会や担当活動、自立支援協議会等、職場内外で様々な役割を担い、受け身ではなく主体者として職場や地域に発信できる力を育てました。

I. 東戸塚地域活動ホームひかり

1. 日中活動事業

(1) 利用実績

<令和元年度>

生活介護事業（定員 35 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	21	20	20	22	19	18	21	20	20	19	18	21	239	19.9
延利用者数	728	694	681	735	637	611	708	675	710	639	591	662	8,071	672.6
利用者数/日	34.7	34.7	34.1	33.4	33.5	33.9	33.7	33.8	35.5	33.6	32.8	31.5	-	33.8
入浴利用人数	31	31	27	29	22	25	28	28	28	28	34	29	340	28.3
送迎利用人数	722	675	654	721	625	566	681	647	685	642	590	650	7,858	654.8

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	21	20	20	22	19	18	21	20	20	19	18	21	239	19.9
延利用者数	40	45	47	51	45	34	46	46	46	42	42	48	532	44.3
利用者数/日	1.9	2.3	2.4	2.3	2.4	1.9	2.2	2.3	2.3	2.2	2.3	2.3	-	2.2
入浴利用人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
送迎利用人数	16	14	16	16	16	12	14	14	16	14	12	14	174	14.5

<平成 30 年度>

生活介護事業（定員 35 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	21	21	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241	20.1
延利用者数	681	684	675	680	662	581	718	677	613	584	621	610	7,786	648.8
利用者数/日	34.1	32.6	32.1	32.4	33.1	32.3	32.6	32.2	32.3	30.7	32.7	30.5	-	32.3
入浴利用人数	33	30	23	37	29	26	39	30	24	25	29	30	355	29.6
送迎利用人数	751	724	752	734	735	606	745	701	628	620	663	648	8,307	692.3

地域活動支援センター事業（定員 10 名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
稼働日数	20	21	21	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241	20.1
延利用者数	47	51	51	49	47	32	51	46	43	42	43	42	544	45.3
利用者数/日	2.4	2.4	2.4	2.3	2.4	1.8	2.3	2.2	2.3	2.2	2.3	2.1	-	2.3
入浴利用人数	4	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	1.1
送迎利用人数	20	21	25	16	18	12	16	16	14	14	14	18	204	17.0

4月に新卒の利用者5名と既卒の利用者1名が加わり、年度途中には既卒の利用者4名を受け入れました。3月末時点での利用者数は72名となります。ひかりに籍はあるものの通所できなかった利用者も複数おり、定期的に電話連絡等のアプローチを図りました。また、様々な要因で在宅生活が一時的に困難となり入院治療をした利用者も複数いました。

(2) 日中活動全体

1) 職員体制

年度当初に産休育休取得職員が復帰しましたが、職員自身や家族の体調不良のため、当日欠勤が出る日も多く、そのような時は生活支援部を中心に他部にも協力を依頼して乗り切りました。

昨年度3名体制だった看護師は1名が退職、1名が休職となりました。

年度後半はパート職員を補充し、概ね円滑な支援体制をとることができました。年度末には新型コロナウイルス感染症を心配して、利用者の中には一定期間通所を見送る方もいましたが、パート職員はお子様のいる方もほぼ休むことなく業務にあたってくれました。

2) ケア会議

月例で開催し、利用者に関して統一した支援体制がとれるよう情報を共有しました。各種行事・イベントに関する意見交換や、進路実習生に対する評価も協議しました。昨年度から引き続き、事故/ヒヤリ・ハット報告の確認と、再発防止策を話し合いました。

不規則勤務のため参加できない職員もいたので、社内メールに議事録を添付して共有しましたが、タイムラグが生じてしまうこともありました。また、報告がメインとなってしまう、支援方法について掘り下げて議論することがなかなか出来なかったため、来年度は現在の形を継続しながら、より内容の濃い会議となるよう進めていきます。

3) 土曜余暇活動

年間を通して、計6回開催しました。

外出企画を3回、季節にちなんだ室内企画を3回実施しました。普段の日中活動では、あまり経験・体験できないようなものを企画しました。少人数で活動する強みを活かし、調理プログラムでは複雑な過程にもチャレンジすることができました。

土曜余暇活動は、積極性を養い、社会性を育む重要な機会となってきています。利用者やご家族にも、新たな活動の機会として認識してもらっているように感じます。定着しつつある土曜余暇活動は、今やリピーターが増加傾向にあります。

来年度も、様々な経験を活かし、利用者の興味につながるような余暇支援を継続して行う予定です。

<開催日とプログラム>

No.	開催日	プログラム
1	5月11日	カレーパーティーへようこそ
2	7月13日	プラネタリウムに行こう
3	9月28日	ひかりでスポーツ大会
4	11月23日	みなとみらいへ行こう
5	1月11日	新年会&初もうでに行こう
6	3月14日	ホワイトデーにクッキーを作ろう

4) 宿泊旅行

5月と11月に、山梨（石和温泉）へ一泊二日の旅行に行きました。

地元名産のほうとうを食べながら和太鼓の演奏を聞き、ハーブ庭園では石鹸作りを体験しました。2日目の猿回し劇場では、みんなで記念写真撮影、河口湖の湖畔での昼食（すき焼き定食）など、眺めの良いロケーションで食事を楽しむこともできました。

幸い、2回とも天候に恵まれ、充実した旅行になりました。

5) 地域とのつながり

自主製品を販売しながら、地域との関係を深める目的で発足した戸塚区内4事業所からなる「T'sくらふと+」も、連携の体制が整うようになり、販売先でも常連の方が増えてきました。

販売後に何がどの位売れたか振り返ることで、製品作りに携わった利用者のモチベーションのアップにもつながりました。

業務連絡や方向性の確認など、関係機関との集まりに関しては、よりスムーズに展開できるようにさらに調整していきます。

6) 情報の発信

引き続き日中活動利用者、ご家族を対象に広報誌「その人らしく」を3ヶ月に一度配布しました。普段の活動の様子をはじめ、土曜余暇活動や一日外出、宿泊旅行の様子、その他各種イベントの様子も掲載しました。写真も多く載せることで、普段口頭や文章では伝えきれない表情なども見ていただける良い媒体となりました。また、「ひかりミュージアム」として毎回利用者にイラストを描いていただき、気持ちのこもった味わい深いものになりました。

ご家族向けには長期休みのお知らせ、悪天候による送迎サービス実施有無のお知らせをその都度配布しました。4月には懇談会も開催してひかり全体や日中活動部の年間予定をお伝えしました。

7) 実習生の受け入れ

高等部3年生5名、既卒者4名の計9名を受け入れました。

No.	実習			性別	学校名<学年>	居住区	目的
	月	所属	期間				
1	6月	カシオペア	2日間	女性	既卒	戸塚区	通所
2		カシオペア	3日間	女性	既卒	戸塚区	通所
3		ペガサス	3日間	女性	鎌倉養護学校	栄区	進路
4	7月	DEM	3日間	男性	既卒	戸塚区	通所
5		フェニックス	5日間	女性	上菅田特別支援学校	戸塚区	進路
6		カシオペア	5日間	男性	保土ヶ谷養護学校	戸塚区	進路
7	9月	カシオペア	3日間	女性	上菅田特別支援学校	保土ヶ谷区	進路
8	10月	カシオペア	4日間	女性	本郷特別支援学校	港南区	進路
9	11月	ミルキーウェイ	1日間	男性	既卒	戸塚区	通所

(3) 各グループ

1) DEM

新卒の男性利用者1名、8月に既卒の男性利用者1名を受け入れ、3月末時点で計12名（男性7名、女性5名）の在籍となりました。新規利用者が作業に慣れるまでの間、ある程度ペースを落として活動をしていたため、作業時間は増加傾向にありました。しかし、利用者同士で協力して作業を行う意識も強くなり、全員で後れを取り戻そうと動かれるようになりました。

11月には戸塚区主催のイベント『スロージョギング de マラニック』より、おいしいものつつかブランドに選ばれた「くるみレーズン」を50個注文いただきました。

川上北小学校個別支援級の生徒たちとの交流も継続し、生徒たちの授業の一環でひかりに来所され、パン作りに関するインタビューを受けました。

年末には、近隣のカラオケルームに行き、納め会にて労をねぎらいました。

2) フェニックス

3月末時点で計18名（男性12名、女性6名）の在籍となりました。

活動内容は、缶潰しを主軸に取り組みました。週に2、3回行う頻度の高い活動のため、マンネリ化しないようそれぞれの役割を変えたりし、意欲をもって作業できるよう工夫しました。また、自主製品の買い物や初詣、近隣の公園などに外出することで外の空気に触れ、リフレッシュする機会を設けました。

体力の低下防止、脚力の維持など運動的内容を必要とする利用者が増え、運動プログラムも多く取り入れました。20分以上の川沿いウォーキングや器械運動などを中心に、時には必要な運動内容を理学療法士やご家族と確認し、個々の運動プログラムをもとに体を動かしました。

作業的な活動にも地域の大型スーパーへ展示する作品作りなど、目的をもって作業することでより丁寧に取り組まれる姿もうかがえました。

3) ペガサス

新卒の男性利用者1名を受け入れ、3月末時点で計9名（男性4名、女性5名）の在籍となりました。

活動内容は、体操・ストレッチ、個々のニーズに合わせた運動プログラムを主軸に取り組みました。また、定期的実施している体重測定も、月の初めに行いました。その他には、月間プログラムを利用者と一緒に作成し、季節にちなんだ行事（七夕・ハロウィン・正月遊び・豆まき等）を取り入れました。これらの活動（行事）を通して、活動に対する理解・認識・興味が深まると共に、個々の積極性や意欲が高まっていきました。

昨年度に引き続き、近隣施設へDEM製品を配達しに行ったり、イベントのチラシ配り等を手伝いました。地域の方と触れ合う機会を提供し、仕事に対する責任感を育みました。

1日外出に関しては、11月に「海老名サービスエリア」へ出かけました。有名なメロンパンのお店や、ご当地グルメが立ち並ぶ屋台などをゆっくりと見回りました。昼食をとったお店の近くに、丁度クリスマスツリーが展示されており、記念撮影を行うと、皆とても喜ばれていました。

4) カシオペア

新卒の女性利用者2名、男性利用者1名を受け入れ、4月に既卒の女性利用者1名、10月に既卒の女性利用者2名を受け入れました。また、10月末に女性利用者1名が退所されたため、3月末時点で計25名（男性10名、女性15名）の在籍となりました。

活動内容は、自主製品作りを主軸に、レジンやハーバリウムにも取り組みました。

運動プログラムでは、音楽をかけたり、ゲーム的な要素を取り入れ、楽しく参加できるように心掛けました。また、11月に1日外出として、崎陽軒のレストランに出かけ、みんなで中華コースを食べました。

5) ミルキーウェイ

11月に既卒の男性利用者1名を受け入れ、3月末時点で計9名（男性9名）の在籍となりました。

活動内容は、引き続き木工作業を主軸に行いました。午後は運動不足解消の為、雨天時以外はなるべく外に出る機会を設け、また、ダンスやエアロビクスなど他グループと合同のプログラムにも積極的に参加しました。

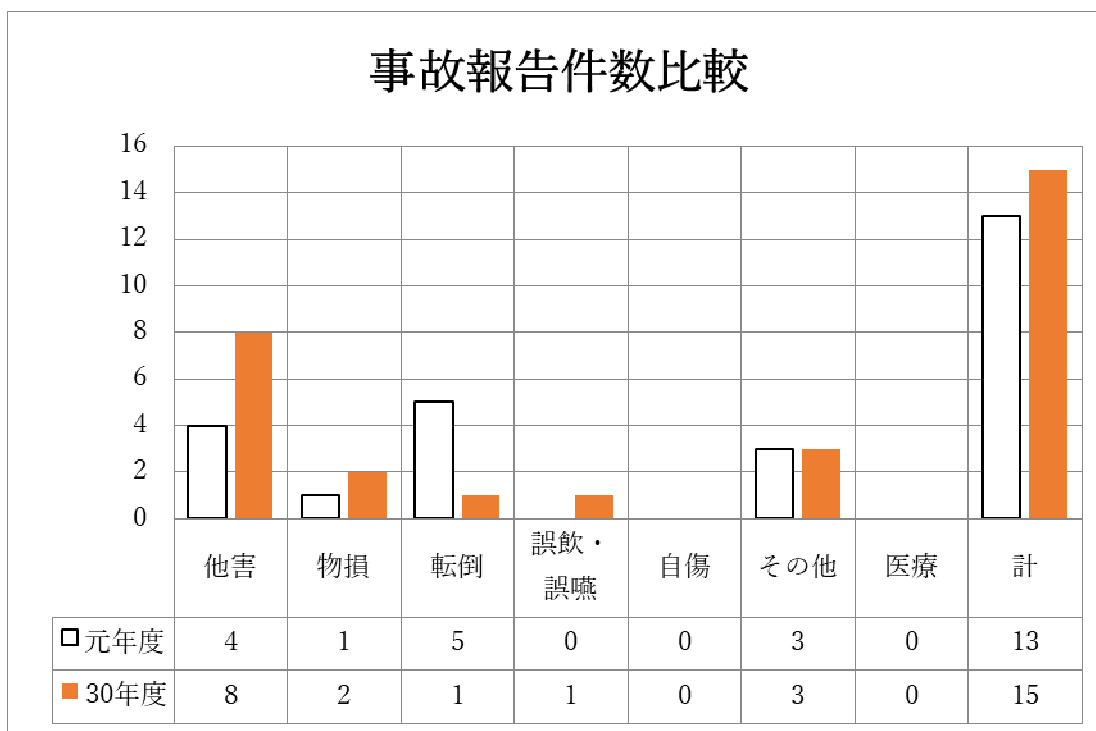
一日外出は年間2回実施し、京急油壺マリンパークと湘南台文化センターのプラネタリウムを楽しみました。

利用者に関して振り返ると、計画相談が入り新たな医療機関とつながった利用者や他事業所への通所を目標にしている利用者、年末にパート職員との間でトラブルがありそれ以来通所できていない利用者等さまざまですが、来年度も本人の意思決定を尊重し、ご家族や関係する支援機関と情報を共有しながら連携を図っていこうと思います。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

計 13 件の事故が発生、報告されています。全体の報告件数は昨年と比べ減少しました。中でも他害の件数が大きく減少しています。利用者にとって過ごしやすい環境を整え、適切な職員配置を行うことで、更に意識を高めていきます。



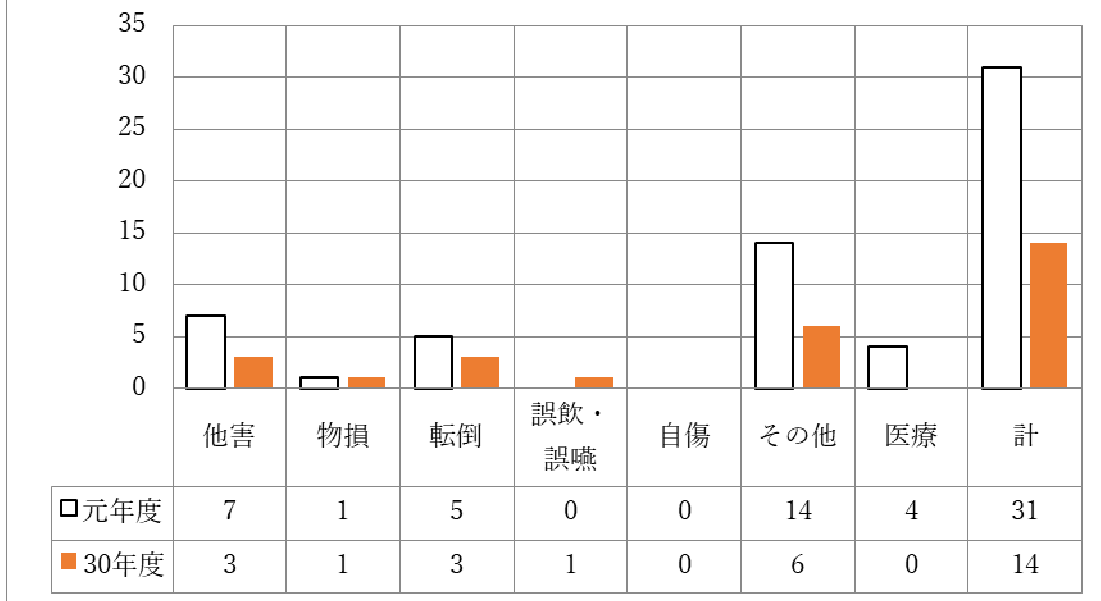
以下、事故の中から、抜粋して掲載します。

- ・利用者 A が椅子に座っていたところ、利用者 B が利用者 A の洋服の首元を掴む。利用者 A は椅子ごと後ろに倒れてしまった。
→あらゆる危険性を考え、利用者 B の行動を見て次の行動を予測する必要性がありました。また、行動の前後だけでなくその日の利用者の情緒にも目を向け、職員全体で考えられる危険を話し合うことで事故を防いでいくことが大切であると考えます。

2) ヒヤリ・ハット

計 31 件のヒヤリ・ハットが発生、報告されています。分類別に見ると、その他の項目が最も多く昨年度はなかった医療の項目が 4 件挙げられています。内容としては 4 件全てが服薬に関する内容(服薬忘れ等)となりました。今後、同じ報告がないよう職員全体で把握し、再発防止に努める必要があります。

ヒヤリ・ハット報告件数比較



以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

- ・運動プログラム中、単独でバランスボールをしていたが、バランスが取れず横に倒れて尻もちをついてしまった。以前行ったバランスボールと大きさが異なっていたこと、バランスボールを壁に当てていなかったことでバランスを崩してしまったと推測される。

(5) 学習・研修参加

参加した研修は下記の通りです。

No.	月日	研修名	場所	参加者
1	10月1日	障害施設向け感染症対策指導者養成研修	戸塚区役所	水戸
2	10月28日	横浜市強度行動障害支援力向上研修①	横浜市技能文化会館	二木
	10月29日	横浜市強度行動障害支援力向上研修②		
3	11月19日	発達障害のある方へのかかわり	健康福祉総合センター	水戸
4	12月5日	横浜市強度行動障害支援力向上研修①	横浜市技能文化会館	武藤
	12月6日	横浜市強度行動障害支援力向上研修②		
5	12月11日	災害シンポジウム	横浜ラポール	諏訪

No.	月日	研修名	場所	参加者
6	1月10日	地域活動ホーム看護師等巡回指導（嚥下・口腔ケア）	ひかり	フェニックス・ ペガサス 職員
7	1月22日	地域活動ホーム看護師等会議（入浴サービス・リフト）	中山機器センター	野口
8	2月1日	地域活動ホーム看護師等会議（看護師間の意見交換）	地域活動ホーム サポートセンター 径	梶原

2. 生活支援事業

(1) 利用実績

1) 一時ケア

利用実績は、昨年度と比べて、延べ時間が623.5時間増加しました。

産休・育休から職員が復帰し、現在の体制となりました。日々の業務の中で、利用者支援や調整業務について相談できる環境が整いました。

現在も週末にかけての利用依頼が多く、物理的なスペース不足や、利用者同士の組み合わせの難しさが目立つようになりました。利用依頼が多い週末は、日中活動部職員にも応援を依頼し、できるだけお受けできるように工夫しました。

【令和元年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
件数実績<件>	94	93	100	108	103	102	104	102	114	108	122	123	1,273	106.1
時間数実績<h>	312.5	325.5	322.0	352.0	375.0	378.0	405.5	390.0	407.0	362.5	479.5	459.5	4,569.0	380.8
平均時間<h>	3.3	3.5	3.2	3.3	3.6	3.7	3.9	3.8	3.6	3.4	3.9	3.7		3.6
依頼数<件>	159	146	124	138	138	147	154	132	141	137	156	177	1,749	145.8
キャンセル数<件>	15	8	2	13	13	20	24	10	7	13	10	30	165	13.8
お断り数<件>	50	45	22	22	22	25	26	20	20	16	24	24	316	26.3

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
件数実績<件>	111	111	120	97	103	104	85	93	93	73	74	108	1,172	97.7
時間数実績<h>	366.5	388.5	393.5	364.5	398.5	354.5	272.5	300.0	300.5	216.0	235.0	355.5	3,945.5	328.8
平均時間<h>	3.3	3.5	3.3	3.8	3.9	3.4	3.2	3.2	3.2	3.0	3.2	3.3		3.4
依頼数<件>	150	159	185	152	196	151	148	143	160	115	136	159	1,854	154.5
キャンセル数<件>	13	14	19	11	19	7	13	5	14	4	11	9	139	11.6
お断り数<件>	26	34	46	44	74	40	48	46	51	38	48	42	537	44.8

2) ショートステイ

利用実績は、昨年度と比べて、延べ泊数が4泊減少しました。

毎月たくさんの依頼がありました。希望日が重なってしまい、お断りするケースもありました。できるだけ多くの方に利用していただけるようにお断りした方には、他の日程のご提案や、キャンセルが出た際には空き状況をお伝えしました。また、地域生活支援拠点機能のひとつである緊急時の受け入れも行いました。受け入れ体制を整えましたが、実際にはキャンセルとなるケースも多く見られました。

【令和元年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
泊数実績<泊>	36	31	43	41	36	38	44	38	43	42	43	43	478	39.8
緊急<泊>	1	1	2	2	0	2	3	2	0	0	1	2	16	1.3
依頼数<件>	47	50	57	62	54	53	67	58	66	57	68	75	714	59.5
キャンセル数<件>	6	5	2	3	3	7	6	3	1	3	7	17	63	5.3
お断り数<件>	4	13	12	16	15	6	17	17	22	12	17	15	166	13.8

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均(月)
泊数実績<泊>	44	38	44	36	47	40	38	43	40	29	38	45	482	40.2
緊急<泊>	4	0	2	0	0	0	0	4	3	0	1	3	17	1.4
依頼数<件>	64	60	71	62	65	61	60	61	59	42	61	60	726	60.5
キャンセル数<件>	2	8	5	1	2	5	5	1	3	2	6	3	43	3.6
お断り数<件>	18	14	22	25	16	16	17	17	16	11	17	12	201	16.8

(2) 登録者数の動向と傾向

新規登録者数は、49名でした。現在の総登録者数は961名（登録された住所地から転居され、転居先不明者108名を除く）となります。基幹相談支援センターの他に、療育センターからの紹介や既登録者の保護者からの紹介を通しての登録がありました。各月の新規登録者は下記の通りです。

【令和元年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録者<人>	3	6	4	5	3	1	4	6	4	8	1	4	49
未就学児<人>	1	1	3	0	1	0	2	3	2	3	0	1	17
18歳以下<人>	1	3	0	4	1	1	1	2	1	3	1	3	21
18歳以上<人>	1	2	1	1	1	0	1	1	1	2	0	0	11
戸塚区内<人>	0	4	3	3	2	1	4	3	4	5	0	4	33
区外<人>	3	2	1	2	1	0	0	3	0	3	1	0	16

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録者<人>	5	7	4	1	3	7	2	3	5	7	3	4	51
未就学児<人>	2	1	1	0	2	4	1	2	2	3	3	2	23
18歳以下<人>	1	0	1	1	1	0	1	1	1	3	0	2	12
18歳以上<人>	2	6	2	0	0	3	0	0	2	1	0	0	16
戸塚区内<人>	4	5	2	1	2	5	2	3	5	6	1	4	40
区外<人>	1	2	2	0	1	2	0	0	0	1	2	0	11

(3) 支援内容

“遊び”を通して、利用者が持っている能力を最大限に発揮し、それを生活の場面に般化することができるよう支援しました。そのために、登録面談の際には通学先や通所先での利用者の取り組みや課題をうかがったり、ご利用の都度、現在困っていることや伸ばしたい部分をご家族から教えていただくことで、ニーズに直結した支援と利用者の成長に合わせた支援を行うことができました。

ショートステイにおいては、良眠の確保を第一にADL面の支援や利用者のニーズに合わせて、生活面の支援（食器洗い、寝具の準備等）を行いました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

事故4件（他害2件、物損1件、その他1件）が発生しました。

以下、事故の中から、抜粋して掲載します。

・職員が目を離した際、ソファにボールペンで落書きをした。

→職員がその場から離れる際、不要な物は片づけ、利用者と安全に遊ぶ環境を整えます。

・ショートステイ時に夕方の薬を飲み忘れる。

→久しぶりの利用だった為、薬の内容が変更されていました。利用回数の有無に関わらず、来所した際には必ず服薬の確認を行います。

2) ヒヤリ・ハット

2件のヒヤリ・ハットが発生・報告されました。2件とも受付のミスによるもので、依頼をお受けしていましたが、受付表に記入し忘れていました。

下半期では、改善され、受付連絡ミスが発生することはありませんでした。

(6) 部門間連携

直接支援に関しては、日中活動部にも協力してもらい対応しました。発作や食物アレルギー等、特別な配慮が必要な利用者については、受け入れの前に申し送りを行いました。

昨年度に引き続き、相談支援部経由の登録がありました。相談支援部で関わっている既登録者については、適宜、連携を取ることで、利用者の生活状況や通学・通所状況等も捉えるように努めました。

一方で、日中活動事業の見学や通所希望がある登録者に関しては、相談支援部あるいは日中活動部につなぎました。また、ケア会議で得た情報の共有を行いました。

なお、緊急利用の受け入れの際には日中活動部を中心に他部にも協力を依頼し、受け入れ体制を整えるように努めました。

3. 相談支援事業

(1) 基幹相談支援センター

1) 総合的・専門的な相談支援の実施

基幹相談支援センターとして開始し、4年が経過しました。相談件数、新規ケースともに大幅に増加しており、基幹相談支援センターの周知や各機関との連携が進んできたことがうかがえます。

休日や夜間の相談も増加傾向にあることから、相談員の出勤体制を見直し、平日・休日問わず相談を受けられるように体制を整えました。夜間や緊急時などの相談員不在時も必要な情報を適切につなげられるよう、地域活動ホーム本体の職員とも対応方法を共有して対応にあたりました。

緊急時の支援が見込めないケースや支援困難ケースについては、「定例カンファレンス」等を通して区役所や生活支援センターと随時情報共有し、連携して対応が行える体制づくりに努めました。

<相談件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
R元年度	284	319	298	336	301	285	343	317	291	256	304	328	3,662
H30年度	93	98	81	60	79	53	103	99	145	165	164	149	1,289

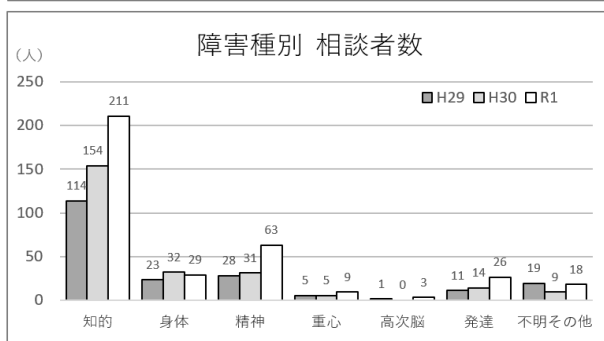
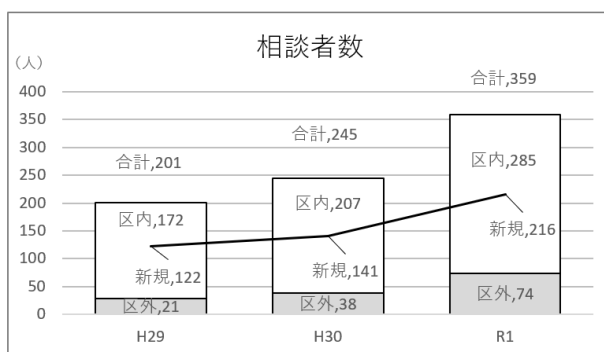
<ケア会議開催状況>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
R元年度	9	8	2	9	3	9	5	8	4	4	2	10	73
H30年度	4	7	7	4	2	6	4	5	6	11	10	12	78

今年度の相談者数は359名、内新規の方が216名となりました。いずれも、基幹相談支援センター初年度と比較すると、約2.7倍の大幅な増加となっています。相談件数では、初年度の約4倍の件数となりました。

大幅な件数の増加は、地域での支援経験のある相談員の入職や、区内の自立生活アシスタント事業所の閉鎖に伴う利用者へのフォローアップを行っていることなどが主な理由として考えられます。

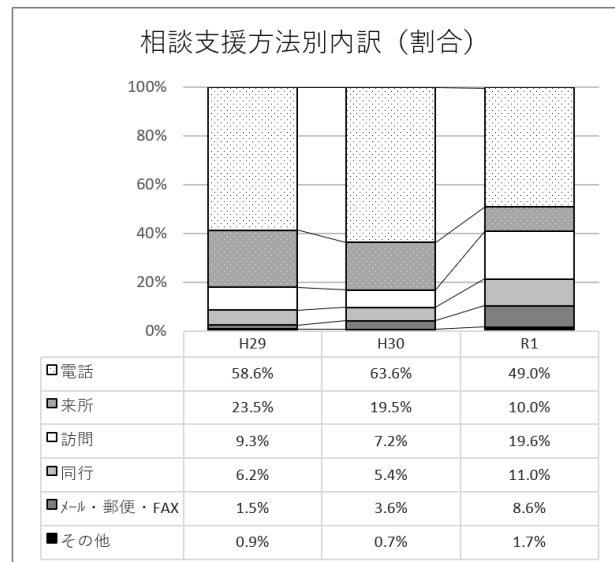
障害種別で見ると、知的、身体、精神、発達の方が共に一定程度の割合で



増加していること分かります。

相談方法の内訳では、電話や来所による相談がやや減少し、訪問や同行が必要なケースの割合が増加しています。

基幹相談支援センターとして4年が経過し、これまで以上に区内外の様々な機関から多様な相談が入るようになりました。今後も地域の中核的な役割を担う機関として、相談員のスキルアップを図ると共に、社会資源との連携や地域全体で支える仕組みづくりに引き続き取り組んでいく必要があると考えます。



2) 地域の相談支援体制の強化の取組

自立支援協議会「相談支援部会」や日頃のやり取りを通して各指定特定相談支援事業所の状況を把握し、必要に応じて情報提供や対応に関する助言等のフォローを行いました。

「相談支援部会」では、各事業所の状況や課題の共有の他、地域生活支援拠点機能の整備に向けた取り組みや相談支援専門員の役割についての共有、事例検討等を行いました。事例検討では、地域生活支援拠点の主な対象者となる『サポート力の弱い方』について検討し、認識を深めています。自立支援協議会「全体会」の事例検討では、相談支援部会のメンバーがファシリテーターの役割を担当し、相談支援専門員としてのスキルアップを目指すと共に、区域の課題を改めて共有する機会としました。

戸塚区役所、戸塚区生活支援センターとは、「定例カンファレンス」等を活用してケースを共有し、連携して支援を行いました。その他、戸塚区全体に関わる事業についての共有・協議の他、区内の計画相談支援の実施状況や地域生活支援拠点に関する情報の共有を行っています。

3) 地域移行・地域定着の促進の取組

栄区生活支援センター・栄区基幹相談支援センター・戸塚区生活支援センターと「退院サポート事業検討会」を実施し、生活訓練施設への見学や社会復帰調整官による医療観察制度の講座へ参加しました。また、生活支援センターと協働し、実際のケースについて地域移行へ向けた支援体制の構築を行っています。

自立支援協議会「コミュニティ研究部会」にて、地域連携事例の共有を行い区内に必要なサービスやネットワークについて検討しました。ケアプラザの学習会に参加し、基幹相談支援センターの周知および個別相談に対応しました。

4) 権利擁護・虐待の防止の取組

昨年度に引き続き「成年後見サポートネット」に参加しました。講演を通して制度の理解を深めた他、事例検討で他機関と協議を行っています。その他、市民後見シンポジウム、各種研修等に参加しました。

成年後見制度の利用については、支援の中で適宜案内を行いました。制度の利用を希望された方は行政書士等へつなげ、申し立てに向けた支援を行いました。

虐待防止については、自立支援協議会「リスク部会」において、支援の場における虐待・権利侵害についての協議を行いました。

5) その他地域の状況に応じた独自の取組

今年度は、担当者会が2回開催されました。地域生活支援拠点機能の整備を進めるにあたり、地域の社会資源の連携強化の重要性を認識しました。担当者会では、地域ケアプラザとの連携をテーマに、地域ケアプラザの理解、区内の地域ケアプラザの事業の情報集約を実施し、18区の基幹相談支援センター内で共有をしました。

自立支援協議会では下記の取り組みを実施しました。

コミュニティ研究部会	地域ケアプラザと連携し、地域住民を対象に障害福祉制度の説明、社会資源の紹介を実施。
地域啓発部会	イオン東戸塚にて、障がい当事者の美術作品を常設展示。
児童部会	“重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループ”を実施。
リスク部会	災害時の要援護者対策についての紙芝居を活用し、出前講座を実施。
精神保健福祉分科会	事例検討を通して、地域移行・地域定着の支援について、気付きや課題を共有。

6) 地域生活支援拠点機能の整備に向けた取組

障害のある方を地域全体で支えるサービス提供体制の構築を進めるため、今年度より基幹相談支援センターの新たな業務として位置付けられました。＜①相談、②緊急時の受入れ・対応、③体験の機会・場の提供、④専門的人材の確保・育成、⑤地域の体制づくり＞の5つの機能について、全機能が本格稼働となる来年度に向け、戸塚区役所、戸塚区生活支援センターと連携しながら取り組みました。

①相談については、想定される「緊急時」について区内指定特定相談支援事業所と意見交換を行った他、定例カンファレンスでは、戸塚区における緊急時予防・対応プランの対象者像についての検討を行いました。②緊急時の受入れ・対応については、区や他区の基幹相談支援センターと連携して受入れ先の調整を行いました。

(2) 計画相談支援

昨年度から引き続き6名の方の計画相談支援を行いました。5月にはひかりの計画相談部門が「相談支援事業所こだま」として新たにスタートし、順次「こだま」への引継ぎを進めています。残る1名の方についても、受給者証の更新時期に合わせて引継ぎを行っていく予定です。

新規の計画相談のご依頼もコンスタントに入ってきていますが、状況に応じて「こだま」や他事業所につなぎ、計画相談の利用が難しい場合などは必要に応じて基幹相談支援センターでフォローを行っています。

以下の表は計画相談支援を実施している方の年間の対応状況です。

電話	訪問	来所	同行	メール 郵便/FAX	その他	合計
27	10	0	0	4	0	41

(3) 関係機関・関係施設との連携・協力

1) コーディネーター業務

教育機関からの施設見学や施設研修（社会体験）の依頼を受け、日中活動部と連携して対応を行いました。

川上北小学校4年生の施設見学は今年度で7回目となりました。地域活動ホームの概要と活動の様子、グループホームでの生活の様子をスライドと動画で紹介し、缶つぶし作業の体験を行っています。また、利用者が4年生のクラスを訪問して夏祭りの宣伝を行い、夏祭りでは4年生の生徒が描いたイラストを会場に飾りました。個別支援級の生徒と利用者との交流も継続して行っています。

2) 定例会議＜外部機関・団体＞

戸塚区役所、戸塚区生活支援センターとの3機関連携の場として「戸塚区定例カンファレンス」を毎月開催し、情報共有の他、連携が必要なケースや困難ケースの支援方針、地域生活支援拠点機能の整備に向けた取り組み等について検討を行っています。地域の状況や区内の計画相談支援の実施率等についても随時共有しています。

その他、以下の会議に参加し、関係機関との連携や研鑽の機会としています。

会議名	主な参加機関	開催頻度
戸塚区定例カンファレンス	<ul style="list-style-type: none"> 戸塚区役所 高齢・障害支援課 身障・知的担当および精神保健福祉担当 戸塚区役所 こども家庭支援課 戸塚区生活支援センター 	毎月1回
基幹相談支援センター連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉局 障害福祉課 基幹相談支援センター 主任相談員 	毎月1回
基幹 担当者会 ＜地域移行担当者会＞ ＜独自の取組担当者会＞ ＜権利擁護担当者会＞	<ul style="list-style-type: none"> 健康福祉局 障害福祉課 基幹相談支援センター 各取組担当者 <ul style="list-style-type: none"> ＜地域移行・地域定着の促進の取組＞担当者 ＜地域の状況に応じた独自の取組＞担当者 ＜権利擁護・虐待の防止＞担当者 	年1～2回

会議名	主な参加機関	開催頻度
3 機関合同連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉局 障害福祉課 ・各区高齢・障害支援課 障害者支援担当 ・各区生活支援センター ・各区基幹相談支援センター ・二次相談支援機関 	年 2 回
神奈川県 基幹相談支援センター連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県 障害サービス課／障害福祉課 ・障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター ・各市町村 基幹相談支援センター ・各市町村 行政職員 	年 1～2 回
発達障害特定相談 全体ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区役所 高齢・障害支援課 ・発達障害者支援センター ・戸塚区生活支援センター ・戸塚就労支援センター 	3ヶ月に1回
成年後見サポートネット	<ul style="list-style-type: none"> ・戸塚区役所 高齢・障害支援課 ・区社協あんしんセンター ・地域包括支援センター ・神奈川県弁護士会 ・リーガルサポート神奈川県支部（司法書士会） ・ばあとなあ神奈川（社会福祉士会） ・コスモス成年後見サポートセンター神奈川支部（行政書士会） ・横浜市市民後見人バンク登録者 	3ヶ月に1回
退院サポート事業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・栄区生活支援センター ・栄区基幹相談支援センター ・戸塚区生活支援センター 	2ヶ月に1回
移動情報センター推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉局 障害支援課 移動支援係 ・横浜市社会福祉協議会 地域福祉課 ・戸塚区社会福祉協議会 ・戸塚区移動情報センター推進委員 (区役所、障害福祉サービス事業所、特別支援学校等) 	年 4 回

(4) 部門内、部門間連携

部内では、これまで実施していた相談支援部の定例会議（月 1 回）に加えて週 1 回のミーティングを実施し、ケースの情報共有や支援方針の確認等を行っています。週に一度必ず全員が顔を合わせる機会をつくり、お互いの業務の状況や新規ケースの共有、対応の検討などを行うことで、相談員間の連携が図りやすくなりました。また、グループウェアを活用して随時情報共有を行い、どの相談員でも対応できるような体制づくりに努めています。

部門間の連携では、実習生の受け入れ、施設見学、体験実習、デイサービス利用契約などについて、日中活動部と連携して進めました。緊急に入る相談では、一時ケア・ショートステイにつなぐ必要のあるケースも多く、生活支援部と連携しながら対応しました。

(5) 戸塚区地域自立支援協議会の運営

戸塚区地域自立支援協議会が立ち上がり、今年で11年目を迎えました。今年度は、区自立支援協議会の要領改正や運営ガイドラインの策定という市全体の動きを受けて戸塚区でも協議会活動について見直しを行いました。協議会の目的や役割についての整理、専門部会・連絡会の再構築、規約の作成等に取り組んでいます。

これまで年3回開催していた担当者会は「全体会」へと名前を変え、各部会の部会長と事務局が参加する会議として新たに「担当者会」を位置付けています。

6月に開催した全体会では、このような戸塚区の取り組みと市が示している区自立支援協議会の方向性について共有した他、改めて区内の社会資源を知り顔の見える関係を作ることを目的として、一部の事業所から事業内容の紹介をしていただきました。10月は国の社会復帰調整官の方をお呼びして医療観察制度についての講義、1月は自立生活アシスタントが関わっていた2つの事例を取り上げ、グループで事例検討を行いました。

<活動内容>

会議名	活動概要	参加者	
代表者会	今年度の全体会・部会・分科会・連絡会活動報告および来年度活動計画、自立支援協議会の規約制定についての確認と承認。	中瀬 芦名 松木 (宮坂)	
事務局会議	全体会および担当者会の内容検討。 各部会・連絡会・分科会の活動状況の把握と挙げられた課題の検討。	中瀬 芦名 松木 川島	
担当者会	各専門部会の活動状況および課題提起の共有。 区域の課題や協議会としての取り組みについて検討。	中瀬 芦名 松木 川島 (宮坂)	
全体会	全機関が集う場を活用し、周辺領域とつながり横断的な関りを創造することを目的に、年3回開催。 ①区自立支援協議会の方向性と戸塚区での取り組みについての共有、区内の事業所紹介。 ②社会復帰調整官より、医療観察制度についての講義。 ③自アシが関わる2つの事例を取り上げ、地域での支援について検討。	中瀬 芦名 松木 川島 齊藤 (宮坂)	
部会	コミュニティ研究部会	専門職のネットワークづくり、地域課題の検討をテーマに、下記を実施。 ①区内地域ケアプラザにて障がい学習会、リスク部会と共催での防災・障がい講座を開催。 ②自アシ担当ケース、ネットワーク支援ケースに関する事例検討を実施。	齊藤 (宮坂) (松丘)
	地域啓発部会	イオンスタイル東戸塚での「戸塚区障がい者美術館計画“みんなちがっていいんだよ”」(当事者美術作品常設展示)を継続開催。 地区社協懇談会に参加し地域住民へ向けた啓発、リスク部会主催の出前講座での講演を実施するなど、他の社会資源と連携した啓発活動を模索。	野口 水戸
	リスク部会	災害時の要援護者対策についての紙芝居を活用した出前講座にて、主に地域ケアプラザを中心に啓発活動を実施。 障害福祉事業所にとってのリスクを「虐待」の視点から検討。	平 (宮坂)

会議名		活動概要	参加者
部会	児童部会	地域の児童と家庭に関わる機関との連携をテーマに、下記を実施。 ①通所支援事業所（放課後等デイサービス、児童発達支援）との連携強化の取り組みとして「全体交流会」を2回開催。 ②特別支援学校の事例を基に放課後等デイサービス利用に関する情報共有。 ③重症心身障害児の支援を考えるワーキンググループの開催。 ④とことこフェスタを通じた啓発活動。	芦名 斉藤
	相談支援部会	相談員の知識獲得と最新情報の共有、地域生活支援拠点の対象者イメージの共有と支援の検討のため、下記を実施。 ①各事業所の紹介及び近況報告、情報共有。 ②集団指導、3機関合同連絡会の内容の共有。 ③地域生活支援拠点の主な対象者のケース共有、緊急時予防対応プランを見据えた事例検討。	芦名 松木 川島 (宮坂)
分科会	精神保健福祉分科会	病院、グループホーム、通所事業所からの事例を基に、支援の考え方や思い、課題を共有。精神障害者の地域生活をサポートする連携の在り方を模索。	松木 林 (宮坂)
連絡会	グループホーム連絡会	支援者研修及び当事者活動を企画（今年度は中止、来年度実施予定）。区内グループホームの実態調査の検討、来年度アンケート調査実施予定。	三野
	日中情報交換会	これまでの活動の振り返りと今後の運営について検討。 特別支援学校・養護学校教員との進路情報交換会を実施。進路情報の共有の他、進路につながりにくい生徒の背景の要因や課題について意見交換。	諏訪 二木 松木

(6) 学習・研修参加

相談員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

No.	月	研修名	場所	参加者
1	5月	行動障害児・者とその家族へのPBS支援	生活創造空間にし	松木 川島
2		管理・職場運営研修	開港記念会館	松木
3		精神保健福祉基礎研修（基礎医学編）	開港記念会館	川島
4		成年後見制度利用促進研修（基礎編）	神奈川県社会福祉会館	斉藤 川島
5	6月	精神保健福祉基礎研修（基礎医学編）	開港記念会館	斉藤
6		発達障害者支援センター全国連絡協議会 公開講座	開港記念会館	松木
7	7月	精神障害者基礎研修	開港記念会館	斉藤
8	8月	相談支援研修Ⅱ	横浜ラポール／西公会堂	斉藤 川島
9		知的障害のある犯罪行為者への支援を学ぶ研修会	大田区産業プラザPiO	川島
10		横浜福祉医療センター港南「とちのき講座」	横浜福祉医療センター港南	芦名
11	9月	発達障害者相談基礎研修	横浜市総合保健医療センター	松木 斉藤 川島

No.	月	研修名	場所	参加者
12	10月	横浜市措置入院者退院後支援事業研修	開港記念会館	斉藤
13		重症心身障害児者支援研修	横浜市西公会堂	斉藤
14		成年後見制度中級者研修	横浜市健康福祉総合センター	川島
15		ダウン症を学ぶ勉強会 ～青年期・成人期・老年期支援者向け～	しんよこはま地域活動ホーム	川島
16	11月	大人の発達障害（主にASDとADHD）の特徴と支援について	地球市民かながわプラザ （あーすぷらざ）	斉藤
17	1月	南部ブロック合同研修会 「始まります！緊急時予防・対応プラン」	横浜市笠間地域ケアプラザ	芦名 松木 斉藤 川島 関口
18		高齢期の知的障害のある方への関わり	横浜市健康福祉総合センター	斉藤
19		発達障害者相談応用研修	横浜市総合保健医療センター	松木 川島
20	2月	総合保健医療センター見学ツアー	横浜市総合保健医療センター	松木 斉藤 川島
21		障害のある人に対する性教育	平塚市子ども自立支援センター	川島
22		市民後見シンポジウム	横浜市健康福祉総合センター	川島
23		成年後見制度利用促進研修（相談支援機関職員向け）	横浜市健康福祉総合センター	川島

4. おもちゃ文庫事業

(1) 利用実績

【令和元年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	21	20	20	22	19	19	22	20	20	19	18	1	221
子ども	219	262	290	374	294	287	399	286	293	339	299	9	3,351
親	192	235	261	314	225	254	337	267	240	291	258	8	2,882
合計(月)	411	497	551	688	519	541	736	553	533	630	557	17	6,233

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼動日数	20	21	21	21	20	18	22	21	19	19	19	20	241
子ども	236	220	295	361	372	275	421	327	249	295	317	371	3,739
親	198	195	269	307	312	254	394	295	229	270	272	306	3,301
合計(月)	434	415	564	668	684	529	815	622	478	565	589	677	7,040

利用表を用意し、保護者のイニシャル、お子さんのニックネーム、お子さんの年齢、入室・退室時間等、必要事項の記入をお願いしました。利用者数は日誌に反映され、年間利用者数の把握や災害時の在籍者確認につながりました。

利用表のお子さんの年齢に注目すると、年間を通して1歳～2歳児の来所が多く、3歳～6歳児はかなり少ないことが分かります。保育園児、幼稚園児の来所は時間的に難しく、園の夏休みなどに利用されていました。保護者からは「平日に利用できないので残念です。土・日はお休みですか？」とよく聞かれます。

1歳前半のお子さんは、ハイハイ、つかまり立ちから歩き初めの時期です。室内を探索しながら、目に付いたおもちゃを手にとって、次のおもちゃを見つけて動き回ります。機嫌よく遊べる時間は1時間位で、眠気や空腹で泣き始めた場合は、早めに遊びを切り上げて、生活リズムを優先していただくよう願いました。

1歳半を過ぎると大人や周囲の子どもとの関わりを楽しみ、遊びの幅が広がり滞在時間も長くなります。ぐずることも増えますが、遊びに対する気持ちが強いので、保護者とも協力して「もっと遊びたい」気持ちを応援しています。

2歳～3歳児は友だちを求めるようになり、グループで来所されることもあります。子ども同士の遊びが増え、今までの生活や遊びの経験から積極的な動きになります。お互いの自己主張がぶつかり、大人の仲介が必要な時期でもありますが、小さいお友だちへの接し方も含めて、遊びから学んでいく姿が見られました。

今年度も地域の親子さん、戸塚療育センター通園の親子さんが遊びを通して交流を楽しみ、保護者の方とスタッフが共にお子さんの成長を感じ合える場面が多々ありました。今後も地域との良い関係を大切にしていきたいと思えます。

(2) 課題・検討事項

- ・保護者の中には子どもの遊びに関わるより、大人同士の情報交換が中心の方もいます。大人が考える以上に、子どもにとって遊ぶことは生きることです。一人一人の欲求、自分を認めて欲しいという気持ちを、スタッフも親と共に受け止めて遊びを支援しました。
- ・最近の利用者のほとんどが1歳～2歳児になり、遊具・絵本について見直す機会が増えました。1歳児はおもちゃを口に入れることが多く、大きさを考慮した安全なおもちゃを購入しました。また、今まで使っていた小さいサイズのおもちゃについて検討を始めました。
- ・ひかりのおもちゃ文庫は木のおもちゃが充実しています。木の感触、音が醸し出す心地良さに親子の気持ちが和みます。メイン遊具の「木の砂場」は人気で楽しんでいただける反面、木玉のサイズが小さいので「口に入れないよう気をつけてください」という主旨のお知らせを掲示しました。木のおもちゃの特性やメンテナンスを学ぶため、東京おもちゃ美術館を見学し、「木育」を土台にした環境について学ぶことができました。これからも安全、安心に配慮した環境を整えたいと思います。
- ・10月に1件のケガが発生しました。スタッフと看護師の連携により処置ができ、その後お子さんが元気な姿を見せて下さったので安心しました。今回、事後の報告をきっかけに初動対応を話し合い、ヒヤリ・ハットを含め報告・共有の大切さを改めて感じました。
- ・1月後半からは新型コロナウイルス感染症の対策として、遊具・絵本のアルコール除菌、室内換気等を行い、消毒が容易なおもちゃを使用しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、おもちゃ文庫は3月以降一時閉室しています。

(3) 遊具・絵本・環境の整備

- ・新しい遊具11点、絵本9冊、参考図書1冊を購入しました。
- ・木の砂場とおもちゃ文庫の広報スペースに、室内利用について注意を促すお知らせ(写真・マーク入り)を掲示しました。ご利用の皆さま、小さいお子さんも「おもちゃを口に入れると危ないね」とご理解いただいています。

(4) その他

- ・7月30日 戸塚地域療育センターのセミナーに参加しました。
- ・10月14日 東京おもちゃ美術館を見学しました。
- ・10月26日 東戸塚地区センターまつりが開催された土曜日10:00～15:00
おもちゃ文庫を開室しました
- ・施設の避難訓練に年2回参加しました。

5. 余暇活動支援事業

計 30 回の余暇活動を実施しました。小中高生対象が 9 回、成人対象が 21 回でした。

小中高生対象の活動はイベント行事や外出を中心として行いました。成人で人気のあったカラオケを小中高生対象でも実施しましたが、外出をするよりも調理を行う活動の方が応募者数の多い結果となりました。成人対象の活動は、例年人気のある「くっきんぐぴかり」を中心に外出の余暇を増やしました。成人に関しては全体的に多数の応募があり、普段ひかりの施設を利用されていない方からも多くの申し込みをいただきました。

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
くっきんぐぴかり (前期)	5月17日	成人	16名	5名	5名	0名	3名
	6月14日				5名	0名	3名
	7月12日				5名	0名	3名
サタデーぴかり (前期)	5月25日	成人	16名	5名	4名	1名	0名
	6月22日				5名	0名	0名
	7月20日				5名	0名	0名
中華を食べよう	6月8日	成人	25名	5名	5名	0名	0名
カレーパーティー	7月28日	小中高生	8名	8名	6名	2名	0名
ひかりで晩ごはん	7月26日	小中高生	5名	5名	5名	0名	0名
	8月2日		5名	5名	5名	0名	2名
くっきんぐぴかり (中期)	9月13日	成人	14名	5名	5名	0名	3名
	10月11日				4名	1名	3名
	11月8日				5名	0名	3名
カラオケに行こう	9月8日	小中高生	5名	5名	3名	2名	0名
サタデーぴかり (後期)	9月21日	成人	16名	5名	5名	0名	0名
	10月19日				5名	0名	0名
	11月16日				4名	1名	0名
みなとみらい散策	10月5日	成人	18名	5名	5名	0名	0名
ランチを食べにお出かけしよう	12月1日	小中高生	3名	3名	2名	1名	0名
くっきんぐぴかり (後期)	12月13日	成人	8名	5名	4名	1名	3名
	1月17日				5名	0名	3名
	2月14日				4名	1名	2名
クリスマス会	12月22日	小中高生	13名	5名	5名	0名	1名
	12月22日	成人	16名	5名	5名	0名	0名
新年会をしよう	1月12日	小中高生	4名	4名	4名	0名	0名
	1月12日	成人	9名	5名	4名	1名	0名

プログラム	開催日	募集対象	応募者数	当選人数	参加人数	欠席数	ボラ数
ピザパーティー をしよう	1月18日	小中高生	4名	4名	4名	0名	0名
カラオケに行こう	2月2日	小中高生	3名	3名	3名	0名	0名
ボーリングへ 行こう	2月22日	成人	11名	5名	5名	0名	0名
中華を食べよう	3月7日	成人	12名	5名	5名	0名	1名

6. 地域交流事業

(1) 貸室利用実績

【令和元年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	28	17	24	17	10	26	20	17	16	19	20	0	214
利用人数	279	174	234	145	91	252	188	163	151	186	183	0	2,046

【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用件数	25	21	26	31	16	24	28	32	13	21	28	25	290
利用人数	228	191	244	299	148	218	269	293	148	193	293	256	2,780

今年度の9月から地域交流室で「東戸塚ひかりおもちゃ病院」を開設しました。毎月第1・第3火曜日、おもちゃの治療をボランティアが行っています。

3月は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた対応として、貸出を中止にしました。

(2) 体験参加型イベント

おもちゃ文庫をご利用の親子を対象に「工作とお話しの会」を5回、開催しました。

子どもの好きなシール貼りを中心とした季節のカード作りと、参加型のお話会を組み合わせ、楽しんで参加されている様子がみられました。

開催月	イベント内容	参加
6月	スクラップブック作り	6組
7月	七夕	6組
10月	ハロウィン	6組
12月	クリスマス	6組
2月	バレンタイン	6組

(3) 他施設・機関主催行事への参加

近隣施設のお祭りや地域のイベントに参加し、自主製品とパンの販売を行いました。

開催月	施設・参加行事
6月	平戸地域ケアサポート祭
8月	戸塚区制80周年記念事業 夏休みこどもフェスタ
11月	・戸塚ふれあい区民まつり ・名瀬サンシャインフェス2019

(4) ひかり主催行事

施設主催のイベントとして、8月に「ぴっかり夏祭り」、12月に「冬フェス - ぴっかりライブハウス -」を開催しました。

8月31日の「ぴっかり夏祭り」は暑さの厳しい中、多くのお客様に足を運んでいただき、楽しまれている様子でいっぱいでした。

今年度はステージを食堂にセッティングし、地域密着型シンガーソングライター・名瀬中学校のシンガーソングライター部に演奏を披露していただきました。

開催準備から、前日の「プレ祭り」、祭り当日、または片付けにいたるまで多くのボランティアに関わっていただきました。近隣の福祉施設や団体など、たくさんの人たちのご協力のもと、今年も盛況な夏祭りを実施することができました。

冬の音楽イベントとして12月8日「冬フェス - ぴっかりライブハウス -」を開催しました。特別支援学校の教員によるバンドは毎年好評で、たくさんのお客様で盛り上がりました。また、3年ぶりに車いすのシンガーソングライターの方に出演していただいた他、再編成したひかりオリジナルバンドが4年ぶりに演奏を披露しました。

終演後のアンケートには「楽しかった」との感想が多く寄せられ、「毎年楽しみにしている」との声もいただきました。

7. 各委員会

(1) 広報委員会

広報誌は、2回（11月、3月）に発行しました。内容は、夏祭り・冬フェスなどのイベント、利用者が製造しているパンの紹介やおもちゃ文庫、基幹相談支援センターの取り組みについて掲載しました。また、ひかりの利用者のコメントや感想も盛り込みました。

ホームページは、ブログでの各イベントのお知らせ、決算報告・事業報告の資料、求人募集の掲載について定期的な修正・更新を行いました。また、ラフォーレさくらのページのリニューアルなどを実施しました。

(2) 保健・衛生委員会

職員・利用者の健康診断を実施しました。夜勤業務のある職員については、年2回の健康診断を行いました。

夏季には熱中症予防対策として、送迎車内に経口補水液とスポーツドリンクを常備しました。また、体調不良者に適切な水分の補給を促すため年間を通して、経口補水液を常備しました。

冬季には職員・デイサービス利用者を対象に、インフルエンザの予防接種を実施し、館内の感染拡大の予防に努めました。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温の延長と館内の清掃方法を看護師や施設長とも確認し、必要な情報の発信などをお便りや社内メールを通して行いました。

「感染症対策指導者養成研修」にも参加しました。インフルエンザやノロウイルスなどの感染症についての基礎知識を学び、感染経路の確認や嘔吐物の処理について習得しました。

その他には、清掃業務を委託している業者に、月1回のペースで施設の階段や床・ベランダ周りの排水口等を清掃していただきました。

(3) リスクマネジメント委員会

組織変更に伴い、令和元年度版 予防管理組織表を修正・変更しました。

1月に福祉避難所の初動訓練を実施しました。横浜市内で震度5強の地震が発生し、福祉避難所を開設することを想定して、施設利用者の安全確保、負傷者の有無の確認、共有システムの入力を行いました。また、2月に神奈川県知的障害施設団体連合会が主催する大規模災害時訓練に参加しました。「孤立しない」「孤立させない」をテーマに、被害状況等の情報収集と発信訓練を行いました。

避難訓練は、火災を想定した訓練を、9月にひかりとグループホームで実施し、併せて消火器訓練を行いました。地震を想定した訓練は、3月に実施しました。当初、

消防署も立ち会う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、立ち合いが不可となり、自主的に開催することになりました。また、事務所内にある複合火災受信機の講習も、セコムを担当者を招いて、2月に行いました。

備蓄品（御飯・飲料水）に関しては、保管している分が有効期限を迎えたため、新たに購入・設置しました。

（４）給食委員会

2ヶ月毎に委員会を開催し、利用者の食事に関する情報交換、内容の充実、行事の際の食事内容等について検討しました。

8月に給食業者の調理師が変更となり、変更直後は食形態や食事提供方法等がスムーズにいかない事もありましたが、その都度情報交換・共有する事で一つずつ改善されました。

月毎に募集するリクエストメニューは継続し、利用者の希望をメニューに反映することができました。

Ⅱ. ラフォーレさくら

1. 利用実績（定員 20 名）

<令和元年度> 在籍人数 18 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	21	20	20	22	18	19	21	21	20	19	20	21	242
延利用者数	239	236	245	264	193	227	242	234	230	211	225	242	2,788
利用人数/日	11.3	11.8	12.2	12.0	10.7	11.9	11.5	11.1	11.5	11.1	11.2	11.5	—
送迎利用者数	30	43	40	40	25	33	32	19	15	15	15	19	326

<平成 30 年度> 在籍人数 16 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	20	21	21	21	20	19	22	22	19	19	21	20	245
延利用者数	214	222	228	219	210	189	217	236	195	188	204	200	2,522
利用人数/日	10.7	10.5	10.8	10.4	10.5	9.9	9.8	10.7	10.2	9.8	9.7	10.0	—
送迎利用者数	27	27	33	36	37	30	34	36	30	30	30	31	381

今年度は、利用者 18 名（男性 9 名、女性 9 名）で活動を行ってきました。居住区の変更により送迎利用者数が減少しましたが、体調不良だった利用者が通所できるようになり延利用者数は増加しました。実習などに関しては、近隣の中学生や特別支援学校の在籍生、複数人を受け入れました。来年度は、職業体験を経験している新卒者 2 名を受け入れ、利用者 20 名でのスタートとなります。

2. 日中活動

(1) 作業について

昨年と同様、下請作業、自主製品作り、販売、接客などの基本作業を行ってきました。新しく書類封入作業も入り、ミスなく正確に、そして効率良く作業を行うためにはどうしたらいいのか？利用者それぞれの特性を理解したうえでの座席の配置やサポート体制、チームワークによる流れ作業がとても重要だと知る体験になりました。

自主製品作りでは、「自分が買わないような商品を作らない」という心構えを持ちながら、より丁寧に仕上げることを目標としました。その結果、完成した作品は手放すのが惜しくなってしまうくらい愛おしく感じる事ができました。

そして、利用者や施設の関係者だけではなく、一般のお客様からもたくさんの注文を受けることができました。今後も「ラフォーレさくら」という事業所の商品ブランド力を高めていきます。また、トライアル中の利用者の作品も技術がアップし、一部価格設定の見直しを行いました。

(2) 生活プログラムについて

体験教室では、新しい自主製品開発を目的としたフェイクスイーツ作りやハスワークを取り入れました。フェイクスイーツ作りは、昨年予定していた回数に満たず市販のパーツを使った体験のみとなったため、引続き講師より技術を学びました。アクリル樹脂粘土を使い数種類の大型パーツを作りながら基礎を学んだ後、タワシやピンセットを使用した表現方法やハサミを使用した後処理方法も教えていただきました。その結果、イベントで開催したワークショップ（3回開催）での販売に結びつけることができました。醤油作りなどは、町内の方に講師をしていただきました。地域の方にも参加していただきコミュニケーションを図るきっかけとなりましたが、熟成されるまでの数ヶ月間、仕込んだ材料の世話をする作業が定期的であり、大変さを感じた利用者もいました。

その他、小グループ毎に行動をする外出レクリエーションや以前から行きたい場所として希望のあった「めんたいこパーク」と「ムーミンバレーパーク」へ日帰り旅行をしました。

健康管理の取り組みとして、健康診断の他、看護師や理学療法士に訪問していただく巡回相談の実施や歯科検診、口腔ケア講座を開催しました。染出し体験を通して、鉛付きのハブラシを使用しながらブラッシングの指導を歯科衛生士より受けました。

開催年月	プログラム内容
4月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・絵画展見学（ギャラリー而今舛） ・作品展鑑賞会（県民ホール） ・笑顔表情筋レッスン（ぼれぼれ） ・Tシャツしぼり染め体験 ・花見 ・歯科検診 ・屋上菜園
5月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・DVD鑑賞会（利用者講習会動画） ・笑顔表情筋レッスン（ぼれぼれ） ・ふれあいスポーツ大会 ・けんこう講座 ・日帰り旅行（伊豆） ・屋上菜園
6月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・絵手紙教室 ・調理実習 ・ふくしま祭り ・レクホールスポーツ（理学療法士参加） ・利用者向け講習会 ・醤油作り ・屋上菜園 ・けんこう講座
7月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・けんこう講座 ・健康診断 ・屋上菜園
8月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・蕎麦打ち体験 ・ひかりプレ夏祭り ・びっかり夏祭り ・屋上菜園
9月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・けんこう講座 ・外出レク（チャブダイカフェ） ・蕎麦打ち体験 ・張子体験 ・レインボーフェスタみなみ ・防災拠点訓練
10月	・機織り講習 ・フェイクスイーツ教室 ・ハスワーク ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・赤い羽根共同募金街頭活動 ・蕎麦打ち体験 ・張子体験 ・オープンマーケット（横国大） ・日帰り旅行（ムーミンバレーパーク）
11月	・機織り講習 ・ハスワーク ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・けんこう講座 ・口腔ケア講座 ・利用者向け講習会 ・収穫祭 ・蕎麦打ち体験 ・本大岡地区みかん狩り
12月	・機織り講習 ・ハスワーク ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・未来を考える集い ・お店サンタ ・訪問サンタ ・けんこう講座 ・忘年会(町っこ)

開催年月	プログラム内容
令和2年	1月 ・機織り講習 ・ハスワーク ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ ・調理実習 ・初詣（弘明寺観音/若宮神社） ・けんこう講座 ・屋上菜園 ・蕎麦打ち体験 ・月餅作り ・わっしょいフェスティバル
	2月 ・機織り講習 ・ハスワーク ・絵手紙教室 ・レクホールスポーツ（理学療法士参加） ・調理実習 ・蕎麦打ち体験 ・バレンタインデースイーツ作り ・防災拠点訓練 ・一時避難所訓練
	3月 ・機織り講習 ・ハスワーク ・絵手紙教室

3. 地域交流について

けんこう講座、地区主催行事などに参加しました。イベントへの協力、設備提供、体験教室などの行事を通して、地域住民との相互理解の構築となりました。

開催年月	行事	場所	主催者・参加者	
令和元年	4月	笑顔表情筋レッスン	ぼれぼれ 地域住民	
	5月	けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター	南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 神奈川県エアロビック連盟
		ふれあいスポーツ大会	横浜市三ツ公園 補助競技場	横浜市心身障害児者を守る会連盟
		笑顔表情筋レッスン	ぼれぼれ	ぼれぼれ利用者 地域住民
	6月	ふくしまつり	井土ヶ谷公園	世話焼き W.Co パンジー 家事介護 W.Co さざん 福祉クラブらら・むーぶ南
		けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター	南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜
		醤油作り	ラフォーレさくら	地域住民
	7月	けんこう講座 (バリアフリーテニス)	南スポーツセンター	南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 NPO 法人 BLACKSOX
	9月	けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター	南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 神奈川県エアロビック連盟
		防災拠点訓練	大岡小学校	本大岡地区 14 町内会
		レインボーフェスタ	どんとこいみなみ	レインボーフェスタ実行委員会
	10月	赤い羽根共同募金 街頭活動	弘明寺商店街	南区障害者地域作業所連絡会
		オープンマーケット	横浜国立大学教育学部 附属特別支援学校	横浜国立大学教育学部附属 特別支援学校

開催年月	行事	場所	主催者・参加者
令和元年	11月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター 南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜・六ッ川中学校
		みかん狩り	金沢文庫 本大岡地区14町内会
		収穫祭	大岡小学校 本大岡地区14町内会
	12月	福祉の未来を考える集い	横浜公園 市内作業所・地域活動ホーム グループホーム・当事者・家族・職員
		けんこう講座 (エアロビック)	南スポーツセンター 南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 神奈川県エアロビック連盟
		お店サンタ	弘明寺商店街 弘明寺商店街 南区社会福祉協議会 地域住民
		訪問サンタ	はぐはぐの樹 はぐはぐの樹利用者 南区社会福祉協議会 地域住民
令和2年	1月	けんこう講座 (チューブ体操・球技)	南スポーツセンター 南区障害者地域作業所連絡会 南区高齢・障害支援課 スマイル横浜
		わっしょいフェスティバル	南公会堂 横浜南陵ロータリークラブ 南区障がい児者団体連絡会
		職業体験	ラフォーレさくら 芹が谷中学校
		月餅作り	ラフォーレさくら 地域住民
	2月	防災拠点訓練	大岡小学校 本大岡地区14町内会 地域住民
		一時避難所訓練	中島町公園 地域住民

4. 他機関や支援者間の連携

利用者やご家族からの相談内容も多様化し、定期的に行われる会議やカンファレンスを通して関係機関より助言を受けながら対応してきました。相談支援に関しては、事業所毎に伝える内容を分ける方もいるので「情報が錯綜し不信感につながる」などの問題が生じる場合があるため、他機関との共有を大切に課題に向き合いました。

支援者の連携については、利用者の状況を職員やボランティア間で常に把握し、定期的に話し合う機会を設けた他、体験教室事前講習会などにも参加していただき支援者間のコミュニケーションも図りました。

5. 防災訓練について

9月、2月に行われた地域防災拠点訓練や一時避難所訓練に参加しました。事前の周知を徹底したことで参加人数が増え、避難ルートを説明しながら実際に歩きました。

訓練を繰り返し行うことで利用者ができることも増えると思いますが、職員にとっても災害時の心構えを持ち集団として動く時の課題を減らす訓練になるよう積み重ねていければと思います。備蓄品の見直しや賞味期限の点検、補充も行いました。

6. 学習・研修参加

研修会や学習会へ参加し、職員の資質向上に努めました。

開催月	研修・講演会名	場所
5月	・地域との関わりについて	南福祉ホームむつみ
	・食品衛生管理講習	横浜市南公会堂
7月	・被災地における障がいのある方の状況 ～南区災害ボランティア ネットワークの取り組み～	トモニー (南区福祉保健活動拠点)
8月	・障がい種別を問わず楽しめるレク活動	南福祉ホームむつみ
9月	・消費者に健康被害（アレルギー表示） を与えない食品表示について	地域活動支援センター ぼれぼれ
	・こころの病と家族・支援者の対応	横浜市健康福祉総合センター
10月	・津久井やまゆり園における意思決定支援について	トモニー (南区福祉保健活動拠点)
	・計画相談について ・後見的支援制度について	地域活動支援センター作業所型 へいへいほー
	・家族支援について	横浜市健康福祉総合センター
11月	・大岡川流域の浸水対策について ・防災時の対応について	大岡地区センター
12月	・津久井やまゆり園における意思決定支援について	南福祉ホームむつみ
	・地域で暮らしを支える福祉のはなし ～地域共生社会ってなに？～	男女共同参画センター横浜

7. その他

地域に密着した情報を発信しているエフエム戸塚の「ハグ・ザ・ライフ～生命を抱きしめよう～」という番組で、利用者が描いた絵手紙のご紹介をしていただきました。それをきっかけに見学会が企画され、ラフォーレさくらの事務所がミニサテライトスタジオとなり、簡易録音機で収録していただきました。

普段とは違う雰囲気や会話収録にあたり緊張していた利用者もいましたが、見学会に参加した方々に拍手で場を盛り上げていただき、パーソナリティーの方のトークにも引き込まれ、当日通所した方全員が参加することができました。また、収録と並行して、機織りやコインパス作りをプログラムに加え、利用者と一緒に体験していただきました。人に教えるという機会をいただき、とても貴重な経験となりました。

Ⅲ. 後見的支援センターとつかエコー

1. 今年度の取り組み

(1) 支援内容の振り返りと整理

登録者数の推移は以下の通りです。

登録者数	昨年度末		93名						
	今年度	上半期	16名	4月	5月	6月	7月	8月	9月
				2名	3名	1名	3名	3名	4名
	下半期	16名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
			3名	1名	4名	2名	2名	4名	
	終了	0名							
合計		125名							

今年度は、新しい担当職員とあんしんサポーターの入職に加え、年度当初からあんしんマネジャーが産休に入られた（※代替のあんしんマネジャーが週3日程度配置されました）こともあり、あらためて“あんしん”を考え、共有するチームづくりに重点をおいた取り組みを進めました。

表面的に発せられた言葉に引きずられず、その方が何を受け取り、どう判断して、なぜその発信をしたのか。それをチームで共有した一年でした。また、将来への“あんしん”の構成要素が、「健康管理支援」「財産管理支援」「生活支援」の3つであることは変わりませんが、本人・家族・支援者・関係者が（その理解の）足並みを揃えることが非常に重要であることを実感させられた年でもありました。

直接的な支援をする制度ではありませんが、本人と一緒に考え、他の支援者とのつながりを意識することで、漫然と話を聴くだけではない支援となるよう心掛けました。

地域とのつながりはまだまだできていませんが、支援者にとってではなく、本人にとってのよりよい生活を意識した活動はできるようになってきています。

(2) 会議

登録者支援・アセスメントのための支援会議を月2回開催しました。

随時、情報共有と方向性確認のための話し合いを行い、常に活動を振り返り、より良い支援を目指しています。また、全体でのマネジャー会議への月3回の参加や、合同担当者会議月1回、代表者会議年3回などの会議を通して、制度のおかれている状況や求められているものの理解に努めました。

その他、必要に応じて外部でのケースカンファレンスに参加しました。

(3) (制度) 説明会

戸塚区地域自立支援協議会の「コミュニティ研究部会」を活用し、他の制度とともに後見的支援制度の説明を、地域ケアプラザなどで行いました。自分たちの制度だけでなく、他の制度・サービスを含めてお伝えすることで、より後見的支援制度について理解していただける様子がかがえ、実際に登録者増につながりました。

(4) 地域連携

戸塚区高齢・障害支援課との連携を図り、様々なケース対応の切り口としてアプローチを行いました。他の支援機関とも連携を図り、困難ケースやケースの掘り起こしに戸塚区の障がい支援チームの1つとして参加させていただきました。また、地域の民生委員の方や有志の方から日頃より気にかけている障がい者の世帯を教えていただくこともあり、地域の方も「誰に相談したら良いのだろう」と思われていることを知りました。

(5) 組織体制

あんしんマネジャーを含めて、構成員の半分が入れ替わりましたが、登録者にとってマイナスになることはなく、安定した活動を維持しました。

2月後半に、あんしんマネジャーが産休より復帰し、あらためて新しいチームづくりが始まっています。登録者像や支援の方向性を、感覚ではなく言語化して共有することで、構成メンバーに左右されないようなチームの質が求められています。

(6) その他

“あんしんキーパー”は、制度理解をしていただいている地域の方になっていただきました。

	登録者数		
	昨年度末	今年度	計
あんしんキーパー	8名	1名	9名

IV. 相談支援事業所こだま

1. 今年度の取り組み

(1) 支援内容の振り返りと整理

事業実績 計画作成 10 件 モニタリング回数 16 回（報酬請求分）

『ひかり』から『こだま』へ事業所変更申請を行い、5月から活動を開始しました。開始直後より新規の問い合わせが絶えず、戸塚区を中心にお受けする形で動き始めましたが、結果的に瀬谷・泉・栄・港南・旭・金沢区などに、活動範囲が広がってしまいました。

計画相談支援の必要性の認識が、行政・家族・支援者間でかなりの開きがあり、優先順位の判断に困ることが多くありました。

計画相談支援が、福祉サービス提供の方向性や進捗、評価にどのくらい影響があるのか、既存の支援ネットワークにどのように参画すべきか、などの課題はありますが、その都度、周辺を精査し、なるべく役に立てるように対応してきました。

年度末には、『ひかり』の日中活動部と協議し、生活介護事業の計画相談未実施利用者に対する計画相談導入について検討しました。

実践を通して、実施手法を明確にし、的確かつスムーズに支援出来るように整理することや、他機関との連携、社会資源の情報収集の必要性を強く感じました。

横浜市の計画相談に関するアクションプランと現状をすり合わせ、この地域で障がいのある人が安心して暮らすための計画相談支援となるよう研鑽を積んで進めていきます。

(2) 会議

計画相談に準ずる個別支援会議に参加した他、困難ケースのカンファレンスの参加、地域の支援者の会議にも参加しました。また、事業所内で相談員が進捗や方向性を確認する会議を適宜設けて進めました。

(3) 地域連携

戸塚区地域自立支援協議会の相談支援部会に定期的に参加し、情報交換と相談支援手法の向上に努めました。

(4) 研修

横浜市の主催する「相談支援研修Ⅰ」に参加し、相談支援従事者に求められる基本的な視点や姿勢、技術等について習得しました。

V. ホープ川上

1. 利用実績

6月に1名が新規で利用開始となり、定員6名の共同生活となりました。12月からは昨年度から入院されていた方の利用も再開したことで、それ以降の利用実績は増加し、安定しています。

利用者の支援区分内訳は、それぞれ区分6が1名、区分5が2名、区分4が3名となっています。

アトピー性皮膚炎が悪化した方や、風邪をこじらせた方、転倒事故により自宅静養されていた方など、それぞれ週単位で帰省されることがあった他、2月末からは新型コロナウイルス感染症の感染を警戒して、帰省される方もありました。金曜日の宿泊に関しては新たに希望される方がおらず、毎週3名の利用となりました。

【令和元年度】

各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	25日	25日	25日	26日	24日	23日	25日	25日	24日	22日	24日	25日	293日
区分6(1名)	25	25	6	26	21	12	20	25	24	22	24	13	243
区分5(2名)	39	24	39	37	36	38	39	36	39	29	28	42	426
区分4(3名)	25	40	41	51	46	42	47	51	65	63	59	51	581
全利用者数	89	89	86	114	103	92	106	112	128	114	111	106	1,250

【平成30年度】

各月の状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス提供日数	24日	25日	26日	25日	24日	23日	26日	25日	24日	22日	23日	26日	293日
区分6(1名)	20	16	21	21	21	23	23	22	24	21	23	26	261
区分5(3名)	36	30	34	38	35	34	43	38	32	29	34	37	420
区分4(2名)	46	47	48	48	45	44	49	48	37	22	23	26	483
全利用者数	102	93	103	107	101	101	115	108	93	72	80	89	1,164

2. 職員体制

昨年度と変わらず、生活支援員を兼務する世話人2名（夜勤）、調理と清掃を担当する世話人2名を中心とした体制で運営しました。

月1回開催している世話人会議や業務日誌でのやり取りを通して、職員間のスケジュールを確認し、勤務変更が入る場合も業務や支援に支障が出ないように調整しました。

バックアップ施設のひかりから男性職員が入る場合には、その都度最新の支援内容を引継ぎしました。

3. 利用者支援

(1) 生活支援

利用者個々の生活リズムに対応し、その人らしい生活を尊重して暮らしていただいています。職員は、穏やかな声かけと必要以上の干渉を少しずつ減らすことで、利用者が不要なストレスを感じる事無く生活ができるよう心掛けています。

必要な方に入浴や排泄の介助を行っています。先の予定に対して不安を抱いてしまう方に対しては、夜間の空いた時間を利用して一緒に翌週の予定表を作って確認したり、服用薬を曜日毎に小分けしたりする他、随時不安を取り除くために相談に応じてきました。

利用者の誕生日会やクリスマス会の他、毎月一回「カレーの日」を設けました。ホワイトボードに書き込んでおくことで、利用者それぞれが確認して、楽しみに待っていてくれるようになりました。

利用者の中には同居の仲間に対して関心を持たない人もいれば、逆に関心を持ち過ぎてしまう方もいます。職員の言動、行動を先回りして仲間に伝えようとする事があり、それが行き過ぎると仲間同士で上下関係をつくり出してしまう事にもなるため、職員は注意深く見守って、行き過ぎがあるときには柔らかくお伝えする事もありました。

10月に配食業者の変更を行いました。生野菜が増えたことは良かったのですが、それまでと比べて主菜のボリュームが増加しているため、利用者の体重増加につながらないように留意しています。

共に暮らす仲間との親睦を深めるため、2月11日(火祝)に一日外出にでかけました。流行し始めた新型コロナウイルス感染症を警戒して、外出先を「東京タワー」から「いちご狩り」に変更しています。

(2) 健康管理

毎日入浴前と起床時のバイタルチェックで、各利用者の平熱を把握しました。月末の体重測定も継続し、ご家庭とも共有しました。体重に関しては、ほとんどの方が平行線または緩やかな減少方向で推移しています。

6月の温泉旅行でアトピー性皮膚炎が悪化してしまった利用者がいました。湿疹は全身の広範囲にわたっていて、塗布する薬も3~4種類あったため、ご家族に来所していただいて塗布の方法をレクチャーしていただきました。症状は一進一退を繰り返しながら、徐々に治まってきました。

11月に利用者の一人が、自宅からひかりへの通所中に転倒し、搬送される事がありました。その後も歯科通院治療が必要だったため、ホーム近くの歯科医院を予約して、2ヶ月にわたって通院同行をしました。その他にも、ご家庭の都合により、ホーム職員が通院同行する事が増えています。

(3) 地域生活

東戸塚地域活動ホームひかりからグループホームまでの移動途中にある商店でおやつを購入したり、地元住民の方とすれ違う際には挨拶をすることを続けています。

ホームの側には公園や裏山があって、秋口や台風、大雨の際にはホーム前の道がたくさん枝や落ち葉で埋め尽くされます。できる限り時間を見つけて清掃するようにしました。

(4) 事故/ヒヤリ・ハット

1) 事故

ホーム内・外で、事故はありませんでした。

2) ヒヤリ・ハット

計 10 件のヒヤリ・ハットが発生しました。(ホーム内×7 件、ホーム外×3 件)
以下、ヒヤリ・ハットの中から、抜粋して掲載します。

- ・朝食後の下膳時、いつも手伝ってくれる〇〇さんと□□さんが汁椀の片付け方をめぐって取り合いになり、落としてしまうことがあった。
→職員が先回りして「〇〇さんはこれを片付けてください、□□さんはこっちをお願いします」と声かけするようにしました。

- ・ひかりからの帰り道、坂道を歩行中に突然車道側に飛び出してしまうことがあり、後ろから車が来ていたので、職員が手を取って引き戻した。
→マンホールを踏んで歩きたい方で、予測もできるので、歩行中は周囲の状況を確認し、必要な声掛けをするようにします。

- ・夕食後に、他利用者が下膳した食器を流しまで取りに行きやり直そうとすることがあった。職員が静止しようとするときに興奮し、食器を頭上高くまで持ち上げたため、男性職員が後ろから食器を取り上げた。
→ご本人の食器をやり直したい衝動は抑えきれないので、「誰もいなくなってからにしてください」とお願いすることにしました。

(5) その他

1) 衛生管理

1 階共用スペース（リビング、キッチン、トイレ、浴室、洗面所、玄関ロビー）については夜勤職員が毎朝清掃し、2 階共用スペース（トイレ、洗面所、多目的スペース、階段）については、夕方に調理担当職員が清掃しています。

新型コロナウイルス感染症等の感染防止のため、3 月からは朝・夕 2 回、手摺やドアノブ、引き出しや冷蔵庫など人の手が触れる部分のアルコール消毒を実施しています。

2) 住環境の改善

- ・ベランダ床や外窓清掃のために、水槽タイプの高圧洗浄機を購入しました。
- ・2F 納戸の整理をするために、スチール棚を購入、設置しました。

4. 学習・研修参加

職員としての資質向上、技術・知識の獲得を目指し、以下の研修に参加しました。

開催月	研修名	場所	参加者
7 月	社会福祉施設防火安全研修会 「グループホーム等夜間一人体制の福祉施設における防火安全対策研修」	横浜市民防災センター	三野 小石
12 月	災害シンポジウム ～被災地支援をとおして見えた現状と課題～	横浜ラポール	三野
1 月	親あるうちの成年後見 ～成年後見制度と横浜市障害者後見的支援制度とを学ぶ～	福祉保健研修交流センター	三野

5. 防災の取り組み

9 月に火災、3 月に地震を想定した避難訓練を行いました。避難訓練に合わせて、持ち出し用備品の確認や、備蓄食料の消費期限の確認も行いました。

社会福祉施設防火安全研修会「グループホーム等夜間一人体制の福祉施設における防火安全対策研修」に参加し、自動火災報知機や火災通報装置、スプリンクラー等の仕組みと効果、実際の火災時の対応などを学びました。